

平成27年3月6日

上ノ国町議会議長

若狭 大四郎 様

氏 名 佐藤 正平



平成26年度政務活動費に係る収支報告について

上ノ国町議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項に基づき、別紙のとおり平成26年度政務活動費収支報告書を提出します。

（はじめに） 佐藤 正平

本年度の政務活動は下記の場所を見学及び視察に行つて来ました。その結果を報告致します。一口に言つて本道のように農地、畑地が広くない。しかしながら農地が狭いながらも有効に耕していることを痛感致しました。この要因は、風土、気候等が本道と比較してもどうしょうもありません。

田野畑村漁協

（平成26年10月1日）

田野畑村は、周囲には豊かな自然が広がり見どころも、たくさんありました。湾が少なく外洋の影響を受けやすい一帯の海岸では、荒波にもまれて海の幸もたくましく育ちような環境であるように思い受けました。

田野畑浜漁協を視察する予定でしたが、当日漁協で緊急なことがあり、対応できないとのことであったので、港を視察いたしました。50才前後の漁師から、震災等の話を聞くことができました。おもにワカメを養殖しており震災後数年とれなかったが、昨年頃から震災前とやや同様の収穫があるようです。

軽米町視察

(平成26年10月2日)

軽米町役場総務課野中勲課長の概要を受けました。同町は、ユニークな施策として

(1) 軽米高校生を対象に1カ月2万円を上限にバス運賃を助成している。

(2) 50才以上で入院、人間ドックを全額

町負担

(3) 食文化マイスター養成講座を積極的に

行なっており、受講者には受講証を交付し、
町民に士気高揚を与えている。

田子町視察

(平成26年10月3日)

田子町役場産業振興課、菊地健二課長及び
たっこにんにく振興室山本美智子総括主幹の
説明を受けました。田子産のにんにくは日本
を代表する最高品質のにんにくである。それ
には、何十年も昔から、その育成に情熱を注
ぎ、研究に研究を重ね、優良な土づくりに成
功して、今のたいへんよいにんにくになった
ようです。にんにくの収穫祭は、毎年6月下
旬に行っており地元はもちろん、近隣の県か
ら、すごい人数がくるようです。栽培面積は
250ヘクタールで販売額は8億円突破して
おります。さらにはにんにく専用CA冷蔵庫

を設置しております。更には深い森だった所
を開拓して作った広大な牧場、やさしい光を
全身に浴びストレスのない自然環境の中で伸
伸と育成されている黒毛和牛もさかんに肥育
されております。

大間町マグロ解体

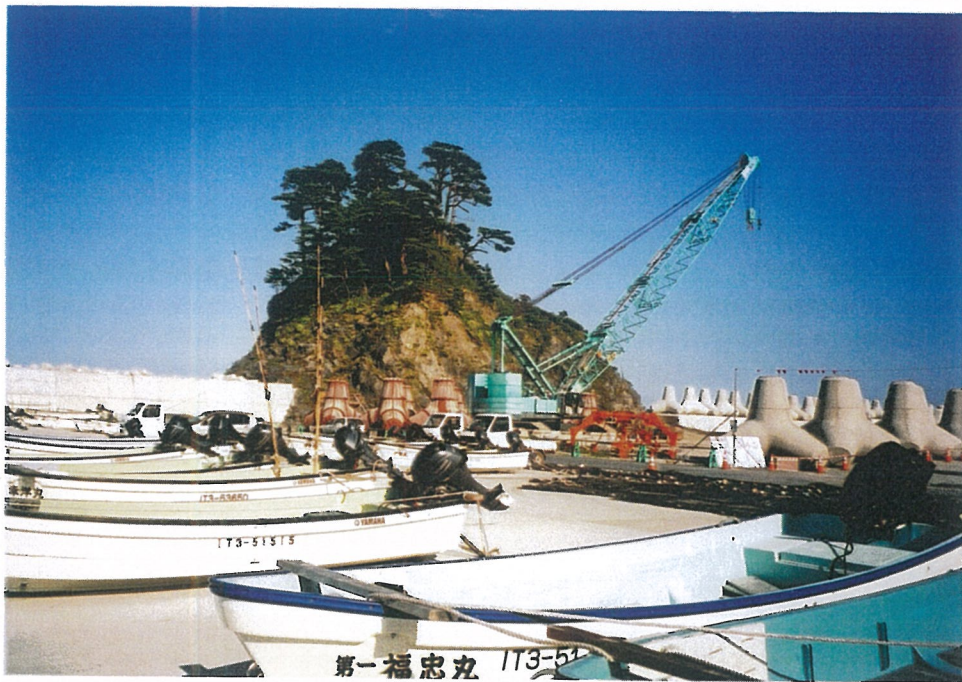
(平成26年10月25日)

大間町役場産業課、山本竜太水産振興係長の説明で大間町内を視察致しました。北通り種苗育成センター、視察する予定でしたが、土日祭日は見学できないようなので断念した。今、大間原発が、建設中であり、シートで囲まれていた。海を挟んで函館から最短で23キロ、50キロ圏内には、道内だけで40万人近い人が住んでいる。過酷事故が発生したらどのように避難するのか。高齢者、病人等今函館市は、建設差し止め訴訟を起こしているがどのようになるのか、疑問に思っている。同町は広大な森林や津軽海峡等豊かな自然

環境に恵まれ、地域資源を利用した産業が
主体で、海の幸、農産物を地産地消に活かし
ながら、地域ブランドの戦略的な加工品の
開発やPR活動の展開などにより、自立的に
発展する地域産業の確立を目指しています。
マグロ解体は、当日午前中に2本解体しまし
た。9時から10時。113キロ、11時
から12時。150キロ。市価よりも3～4
割、安値で売られていた。観光協会では、2
日間で1万人の見学者がくるであろうと話
されていた。

(むすび)

我が国すべての自治体が地域発展のため努力
している。私も微力ながらも、産業発展に
貢献致します。



田野畑浜
漁港
(H26.10.1)



軽米町
役場
(H26.10.2)



田子町
役場
(H26.10.2)



天間町
漁港
(H26.10.25)



マグロ祭り
天間町
漁港
(H26.10.25)

